

comuoonをきっかけに
医療者と患者さんが
自然体で接することができる
“やさしい”医療現場を創造します。



「聴こえのユニバーサルデザイン」を象徴するツール。

当院では、院内の薬局窓口で薬をお渡ししています。しかし患者さんの高齢化や難解な薬剤名の増加などを背景に、「呼び出しても聴こえない」「薬剤師が何度も説明する必要がある」などの課題が深刻化していました。そんなとき、テレビでcomuoonを知ったのですが、同じタイミングで師長からもcomuoonについての話があり、「これは解決の糸口になる」と3台を導入、comuoonを軸にした薬局窓口の環境改善を行いました。結果、「薬の説明が理解しやすくなった」「耳が遠いが、これなら安心」という喜びの声につながっています。今後はさらに薬剤師の意識を高め、自然体で接するやさしい医療現場を創っていきます。また、さまざまな患者さんと関わる外来診療や病棟でもcomuoonを活用できると考えています。例えば肺疾患の患者さんは、

肺活量が低下するため声が小さくなってしまいがちなのですが、患者さんの声を医師が正しく聴き取るという点でもcomuoonは有効です。医療者と患者さんとの障壁が改善され、双方向のコミュニケーションが実現する。comuoonはまさに「聴こえのユニバーサルデザイン」を象徴する高機能なツールです。comuoonが今後どのように進化していくのか、実践を通して見届けていきます。



前之原 茂穂 さま

鹿児島厚生連病院 院長。院内薬局窓口にcomuoonを設置することで、患者さんの「聴こえ」の改善に積極的に取り組み、comuoonの機能を最大限に活用した環境改善を進めている。

※取材内容は2016年10月時点のものです。

comuoonを導入して、
患者さんの新しい一面を
見ることができたように感じます。



社会全体の認知症予防に。

当院はご高齢の患者さんの割合が高く、聴こえにくい患者さんもたくさん来院されます。そのような患者さんの診察では、聴き返されることが多く、大きな声で何度も話すことになるため、とても時間がかかっていました。しかし、comuoon導入後は、1度話すだけで伝わるようになったんです。以前は私の話も半分くらいしか聴こえていなかったようですが、いまはしっかりと聴こえているそうです。患者さんと直接話すことができるので、細かいニュアンスも伝わりますし、何よりご本人の意思を確認しながら診療を進めることができます。それに、これまで黙っていた方が、実はたくさん話してくださる方だった、と気づいたこともあったんです。そのように、患者さんの新しい一面と出会えたこともうれしい変化のひとつですね。認知症のリスクファクター

として「一人暮らし」が挙げられますが、ご家族など、他の方と会話しながら暮らすことで脳は活性化し、認知症の進行を遅らせることができると考えられています。だからこそcomuoonで聴こえを改善できれば、認知症の進行予防につながると思います。今後、comuoonがもっといろいろな場所で利用されていけば、社会全体での認知症予防にもつながるのではないかと思いますね。



西村 知香 さま

くるみクリニック 院長。「認知症の患者さんとご家族が豊かに暮らしていけるように、その人らしい生き方が全うできるように」を基本に、日頃から患者さんを取り巻く環境にまで目を向けた診察を心がけている。

※取材内容は2017年5月時点のものです。

西日本ジェイアールバス × comuoon®

comuoonが来て、
顔と顔を合わせた
より伝わるご案内が
できるようになりました。



快適なバスの旅の、始まりの場所も快適に。

バスをはじめとする公共交通機関のチケットの販売窓口には、言葉が聞き取りにくいお客さまや高齢のお客さまも多くいらっしゃいます。当社ではこれまで、窓口立つ全社員の手話の資格取得を推進し、研修などの面でサポートを行ってきました。その流れの中で、障害者差別解消法が施行され、ハード面でも何か対応ができないかと考えていたとき、たまたま新聞で銀行の窓口でcomuoonが導入されたという記事を目にしたんです。それをきっかけとして、詳細を調べるうちに、comuoonならハード面でサービスの質を上げることができると考え、8台のcomuoonを一斉に導入しました。使ってみて、そのクリアな音に驚きましたし、窓口サービスで高い効果を発揮してくれています。実際、以前と比べて聞き間違いなどによるチケットの誤発行

なども減ったと認識しております。ご高齢の方の中にはインターネットでの販売を難しく感じられる方もいらっしゃいますので、そういう意味でも、お客さまと対面でコミュニケーションを取ることでできる窓口サービスは絶対に必要だと感じています。快適なバスの旅、その始まりの場所も快適であることをめざし、今後もより良いサービスを提供していきたいと考えております。



濱本 浩司 さま

西日本ジェイアールバス株式会社 営業部 サービス販売促進課 主任。
チケットの販売窓口業務における質の高いサービスをめざし、ソフト・ハードの両面からさまざまな取り組みを行っている。

※取材内容は2017年2月時点のものです。

東京ドーム × comuoon®

悩んでいた私の毎日を
このcomuoonが、
劇的に変えてくれたんです。



聞き取れることの喜びを感じる毎日。

私は幼少の頃から左耳が聴えず、全ての音を右の耳で拾っていたのですが、数年前から右耳の聴力も徐々に低下。あたり前にできていた会話も困難になっていました。そんなとき、comuoonの存在を知り、「難聴者のために健聴者が使う機器」という画期的な製品に、衝撃を受けました。その後、comuoonで音楽を聴く機会があったのですが、音質が全然違うんですね。補聴器のように歌詞とメロディが混ざることなく、それぞれをはっきりと聞き取ることができたんです。それをきっかけにレンタルで使用し、職場でも評判が良かったため、正式に会社への導入が決まりました。いままでは、口の動きを観察したり、筆談をしてもらったりと、文字変換対応の機械や補聴器に頼っていたのですが、それでも話の内容がわからず、「この会議に参加して良いの

だろうか?」と考えることも多かったんです。しかし、comuoon導入後は、会議の内容をほぼ理解できるようになり、いまではリラックスした状態で会議に臨めるようになりました。声のトーンから相手の感情も伝わってきますし、何より聞き取れることへの喜びを感じています。今後は来園されたお客さまへのご対応など、もっと幅広いシーンでcomuoonを使っていきたいですね。



青木 知子 さま

株式会社東京ドーム(アミューズメント部)教育・安全グループ所属。スタッフの教育や来園者対応、庶務業務などに従事しながら、社内で手話の講習会を行い、難聴に関する社員の知識やスキル向上に大きく貢献している。

※取材内容は2017年1月時点のものです。